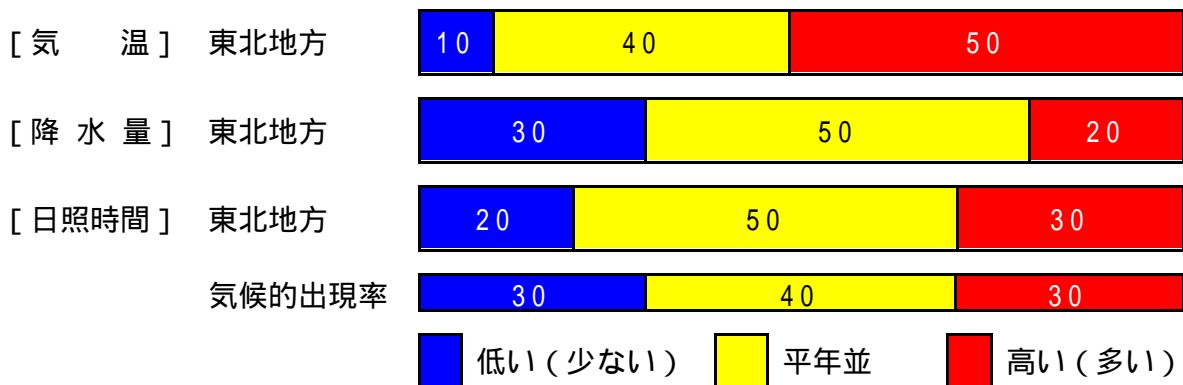


# 東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：8月5日～9月4日）

平成12年8月4日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で、その確率は40%です。「低い」の可能性は10%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

### 向こう1か月

この期間は、太平洋高気圧に覆われて平年同様晴れの日が多い見込みですが、前線の影響を受ける時期があるでしょう。

また、これまで気温の高い状態が続いていましたが、予報期間前半は寒気の南下で平年並となる時期があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約18日です。

### 各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 期間の中頃に気圧の谷が通過するため天気のくずれる所があります（8月5日～8月11日）ですが、その他の日は太平洋高気圧に覆われて晴れるでしょう。大気の状態が不安定で、にわか雨か雷雨の所がある見込みです。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。

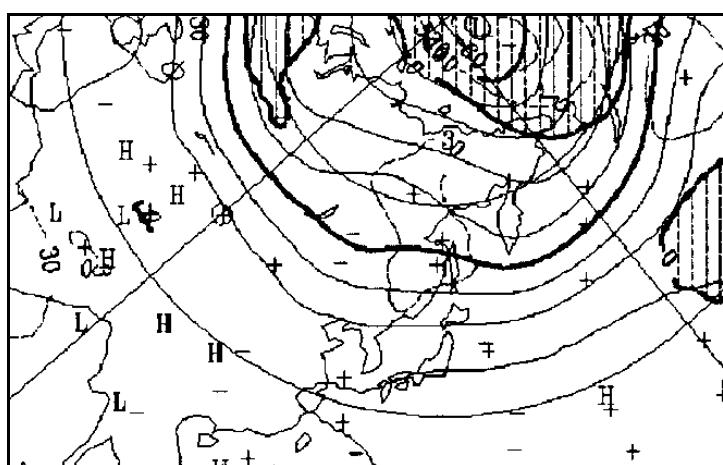
2週目…………… 太平洋高気圧に覆われ晴れる日もありますが、前線や上空の寒気の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。

3~4週目……… 太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みですが、前線の影響  
 (8月19日~9月1日) でぐずつく時期がある見込みです。  
 平均気温は高い見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北地方で約8日です。

#### 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

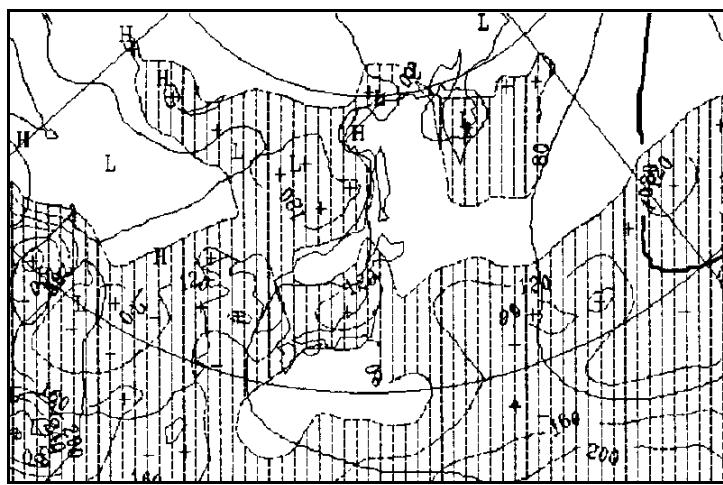


月平均の500hPa高度・偏差  
 (等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

#### ・500hPa高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は正偏差に覆われる。夏型の安定した晴天をもたらす亜熱帯高気圧が本州の南に張り出す。

週別（図略）に見ると、2週目は北日本～日本の東海上は負偏差となり、寒気の影響を受ける時期がある。3～4週目は、再び日本の南東海上で亜熱帯高気圧が強まり、日本付近は正偏差になるが、前線の影響を受けたり、高気圧の縁辺をまわる湿った気流の影響で大気の状態が不安定となる時期がある見込みです。



月平均の地上気圧と降水量  
 (等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

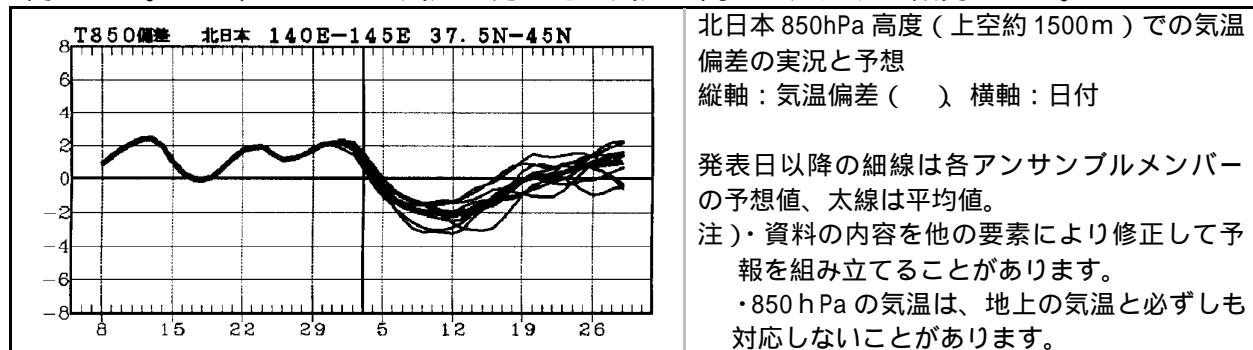
#### ・地上気圧と降水量

月平均で見ると、太平洋高気圧は本州付近を広く覆う。日本海の北部では等圧線がくびれ、降水域は、本州付近に東西に広がっており、前線や高気圧の縁辺をまわる湿った気流の影響を受ける時期がある見込み。

週別（図略）では、1週目は太平洋高気圧の勢力が最も強く、東北地方は高気圧にすっぽり覆われる。2週目は太平洋高気圧の北への張り出しが弱まり、東北地方は前線や上空の寒気の影響を受けやすい。3週目以降は、太平洋高気圧はやや強まるが、前線や高気圧の縁辺にあたって不安定な天気となる時期がある見込み。

### 3. 北日本 850 hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると 1~2 週目は平年より低く、その後平年並~高めで推移する。ただし最近は、実況が予想より高めに経過する傾向がある。また、850 hPa の気温に比べ地上気温が高めに経過する傾向もある。



注: 1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します(この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます)。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

### 4. 最近1週間(7月28日~8月3日)の天候の経過

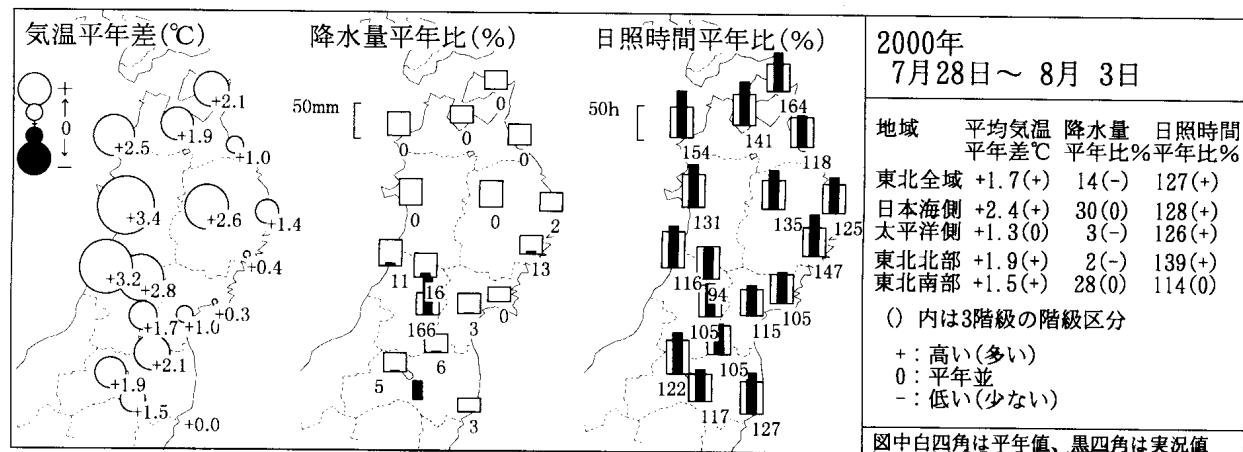
東北地方は、太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多くなった。特に30日以降は、東北日本海側や内陸部を中心に著しい高温となった。

期間中で最も最高気温が高かった値とその起日は、青森 34.2 (1日) 秋田 37.9 (31日) 盛岡 36.2 (1日) 仙台 32.2 (2日) 山形 35.8 (31日) 福島 36.1 (1日) 等となっている。特に秋田では、7月としては第1位、通年でも第2位の高温を記録した。

このため、7月31日と8月4日に「高温に関する東北地方気象情報」が発表された。

また、日中の昇温により大気の状態が不安定となり、山沿いを中心に雷雨となる日が多くなった。

平均気温は、東北地方で平年差+1.7 と平年より高かった。降水量は、東北地方で平年比14%と平年より少なかった。日照時間は、東北地方で平年比127%と平年より多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)